

小院瀬見新聞

2026年1月号

小院瀬見新聞社

〒939-1764
富山県南砺市
吉見70番地
編集担当 中島健二
電話080-6359-3992

旧即成寺の鐘楼

小院瀬見集落で20年前に惜しまれて廃寺となった即成寺跡に唯一、形見のように残る鐘楼で、昨年12月の大みそかから今年の元日にかけ、立派な鐘の音が鳴り響いた。3年半前に金沢から移住した黒梅明さん(77)が朽ちていた撞木(しゅもく)を作り直して復活させた除夜の鐘。今や恒例となったが、今年の春に完全移住することを決めた黒梅さんは特別な思いも込めたという。



黒梅さんが復活させた撞木で除夜の鐘を撞く参加者

完全移住へ響け除夜の鐘

撞木復活の黒梅明さん

鐘楼は集落の中心部でひとときわ立つ所にある。江戸時代に開基された即成寺。廃寺後の令和2(2022)年には本堂などが取り壊されがらんとした跡地の鐘楼で使えなくなっていた撞木(しゅもく)の目をとった。移住を決めて準備をしていたこのころ、地元の人々の役に立ちたいと思いついて、材料のシュロの木を伐り出し、3カ月かけて作り直した。その年の大みそかから毎年続く除夜の鐘には、わず

か4世帯の限界集落に多く

の人が訪れる。昨年末も

代々集落に暮らす水口登洋

治さん(83)

のぶさん(78)

夫妻はじめ住

人や出身者

自然栽培の米

づくりを行っ

たり、撞木を

つくりを行っ



小院瀬見愛を込めて鐘を撞く黒梅さん

自然栽培にすいたい

「村の人がみんな集まっ...」と、この地で自然を守りたいという人が来て、毎年やれることがあって、毎年や梅さん。今回は特に力が入った。いずれ体が動かなくなったら戻ろうと残しておいた金沢の家を処分し、小院瀬見の家を終の棲家(ついでにすま)とすることを決めた。前は迷いもあったが、水

ヤギたち育て地域活性化

道もない山里の暮らしにも慣れてきた。「ここは自然の世界。動物を飼って一緒に生きていきたい。村の人は少ないが、歓迎してくれる。一緒にここを守りたい」と、母が亡くなったことも後を押しした。4月には正式に小院瀬見住民になる。



照明で夜空に浮かぶ即成寺の鐘楼

集落の2025

2025小院瀬見の1年	
1月	吉見の方衆による小院瀬見から参詣(13日)
2月	配給物大賞で一等賞受賞(下旬)
3月	再々小院瀬見公民館の古道具展(20日)
4月	この年最初の打ち上げ(26日)一年間4回実施 東部探検隊が山岳電通等水場調査(26日) 監玉山麓の静遊で山家探りの市内男性会に 参加(3日)
5月	家この年は秋にかけ全国でクマ警備訓練 福光殿在材料のカラムシ栽培開始(20日) 探検隊が富山石川原探検のジュンサイ花を 調査(21日)
6月	嵐降る少雨が続き7月にかけ湯水乾燥 集落前の山脈にCass山脈が設け
7月	晴天、蕎麦の収穫まで田のひび割れも 一雨、雨不調。農道で土砂が水路を必 要に詰まらせた(7日)
8月	南砺の系文化財館で美大生が福光殿有 字ぶ(2~5日)
9月	ハニコ田圃の精刈り、上々の収穫
10月	福光殿バスツアー(3日)
11月	集落によう再販ワークショップ(8日) この年最後の打ち上げに60人(29日)
12月	恵山で計産のデータセンター説明会(3日) 集落にこの冬の初詣(4日)

激動の昨年、大雪に猛暑に長雨、翻弄された集落。大みそかの除夜の鐘を聞いていたら2025年増。小院瀬見では山菜取りの最中に襲われ負傷した人もいた。記録的な大雪で除雪に明け暮れ、夏は湯水に誘致構想が浮上。里山緑地広場に巨大施設が開発された。日本中が驚き、震え上がった。この情報が驚嘆されたい。

餅つきに落語で祝

小院瀬見の田園で自然栽培の餅つきイベントを開催。米づくりなどを行って一般社団法人「Honey & Cotton」(ハニコ)は昨年12月21日、集落内の古民家・山口家の「めぐる」で「感謝の日」のイベントを開き、ハニコメンバーとその家族らとともに、昨年収穫できた作

物などを使った餅つきや食事会を楽しんだ。餅つきは、今年採れたもち米の玄米を蒸して使用。臼と杵で参加者が代わって打つ。子供たちも頑張った。力。つきたてのお餅をいりし、和やかに語りながら味わった。

夜には鍋料理も振舞われ、吉原キリギリスさんが見事な落語で大いに盛り上げた。



もち米の玄米で餅つき楽しむ

2面フォトコン受賞決まる 被災地支援イベント

「西太美秋の美しさ」競演 地域づくり協フォトコン 入賞作決まる



一般部門1位「駆け足で通り過ぎる秋」日西孝明さん

西太美地域づくり協議会が地元の「秋の美しさ」をテーマに昨年10月1日〜12月10日に実施したフォトコンテストの入賞作品10点が決まり、1月8日に発表された。地域のことを好きになつて関心を持ってもらおうとの狙いで季節ごとに実施しており、協議会は今後、入賞作が撮影された場所を回るツアーも企画するといふ。

部門ごとの入賞条件が限定され、たふらさと部門（小中学生部門と高校生以上の部門）で募集した。その結果、地区内外から152点の応募があり、協議会の地域づくり部会が審査し、それぞれ部門ごとに3位までの入賞作を決めた。

一般部門の1位は南砺市「福光」日西孝明さんの「駆け足で通り過ぎる秋」。雪が積もり始めた医王山とその手前の紅葉で黄色く色づいた樹木のコントラストが秋から冬への移ろいを美しく表現している。

ふらさと小中学生部門は小院瀬見の西井美里さん（福光中学校1年）の「小院瀬見神明宮」で自然石で組まれた極めて珍しい鳥居を撮影した。この鳥居は、一般部門3位の平木叙光さん（砺波市太田）の「仁王立ち」も下から見上げるアングルで撮影しており、医王山と並んで人気のフォトスポットになっている。

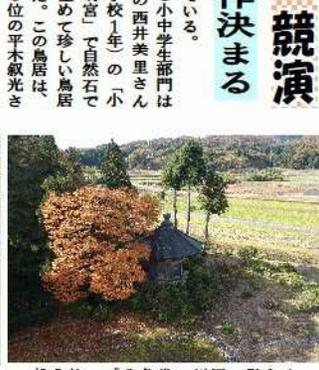
協議会は1月17日午前9時からイオックスアローザスキ場のゴンドラ乗り場前で表彰式を行う。31日まで入賞作品を展示する。



一般部門2位「静かな流れ」片岸勉さん



一般3位「仁王立ち」平木 叙光さん



一般3位 「八角堂」川辺 弘さん



小中生1位 西井美里さん



小中生2位 土倉果歩さん



小中生3位 森井瀬夏さん

入賞した皆さん

- 【一般部門】
- 1位＝日西孝明（南砺市福光）「駆け足で通り過ぎる秋」
 - 2位＝片岸 勉（南砺市遊部）「静かな流れ」
 - 3位＝平木叙光（砺波市太田）「仁王立ち」
 - 3位＝川辺 弘（南砺市才川七）「八角堂」
- 【ふらさと部門・小中学生】
- 1位＝西井美里（福光中1年）「小院瀬見神明宮」
 - 2位＝土倉果歩（福光南部小2年）「キバナコスモスとトンボ」
 - 3位＝森井瀬夏（福光南部小5年）「医王山の初雪」
- 【ふらさと部門・高校生以上】
- 1位＝中屋 望（南砺市広谷）「ダブルレインボー」
 - 2位＝西川功敏（南砺市才川七）「西太美神社」
 - 3位＝吉田美穂子（南砺市才川七）「晩秋」

能登半島地震の被災者支援

今年も25日に新春コンサート

能登半島地震の被災地 々木真さん 国内外で活躍する富山県出身のピアノ奏者を2年にわたり続け、ニストの丸山美由紀さんと、金沢市で弦楽奏者として活躍する「朱鷺が舞う」のメンバーが、希望の歌声を響かせたいと、広く作曲を募集した。多目的ホールで「被災地支援・新春コンサート」を開催する。

黒梅さんは、かつて小院瀬見に住む黒梅明彦さん（77）が事務局長を担っており、今も厳しい災害を受けて当時の関係者から請われて事務局の長となった。昨年、七尾市で開いたコンサートで、人たちに癒しのひとときを、と昨年に続いて企画した。

「住み替わられる能登復興をめざす」との願いを込めたコンサートは午後1時30分から、呼ぶ規模が前回より大幅に大きいら、トすすでの開

今年も昨年同様、会場は特別に51077へ。

新春コンサートの問い合わせは実行委員会事務局 電話0767（23）

「朱鷺が舞う」のメンバーは、黒梅さん、中屋さん、西川さん、吉田さん。今年も被災者を励ましたいという思いから、石川県羽咋市で今年、放鳥された朱鷺に能登復興の願いを込めて「朱鷺が舞う」と題した詩を作った。希望の歌声を響かせたいと、広く作曲を募集した。多目的ホールで「被災地支援・新春コンサート」を開催する。

今回のコンサートで復興ソングとして披露されるほか、2月23日に羽咋市飯山町の邑知公民館で、「朱鷺が舞う」の広場」と題したコンサートでも聞き、寄せられたすべての曲を披露する。

新春コンサートの問い合わせは実行委員会事務局 電話0767（23）

